

風水害等

近年台風などによる大雨・暴風の被害が各地で発生しています。気象情報の入手など、早めの対策を講じることで、被害を軽減することは可能です。そのためには、備えといざというときに取るべき行動をイメージしておくことが大切です。



気象情報と 避難情報の確認

避難情報等や警戒レベルに応じた避難行動等を今一度確認しておきましょう。

P.22



ハザードマップと マイ・タイムラインの 活用

自宅や職場がある地域の危険性を把握するため、あらかじめハザードマップなどを確認し、避難行動計画のマイ・タイムラインも積極的に活用するようにしましょう。

P.24



考えられる 被害への備え (台風・土砂災害・浸水害)

台風・土砂災害・浸水害などに対して、事前にできる備えを具体的に知っておきましょう。

P.26



風水害時の 避難行動の確認

風水害時の避難行動を改めて学んでおきましょう。「情報を早めに得る」「早めに避難する」が鉄則です。基本的な避難方法や注意事項を知っておきましょう。

P.28



雷・竜巻・ 火山災害への 備え

実際に直面したら、どう行動したらよいかわからない……、そんな雷・竜巻・火山災害への備え。身を守るための基本的な行動を知っておきましょう。

P.30

気象情報と避難情報の確認

避難とは「難」を「避」けることであり、避難所に行くことだけが避難行動ではありません。また、避難指示等が出されていなくても「自らの命は自らで守る」という考えのもと、危険がせまる前に早めに避難を開始しましょう。

各種の情報は、警戒レベル1～5の順番で発表されるとは限りません。避難情報が発令されていなくても身の危険を感じる場合は速やかに避難を開始しましょう。

※警戒レベルについて詳しくは、内閣府ホームページをご覧ください。




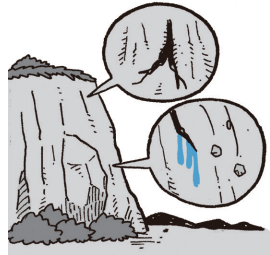
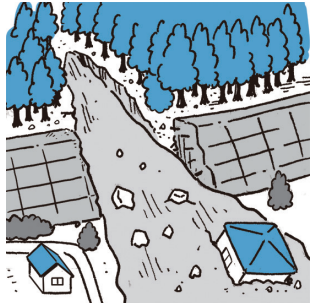
内閣府防災情報のページ

避難情報に関するガイドライン

検索



低 ← 危険度 → 高

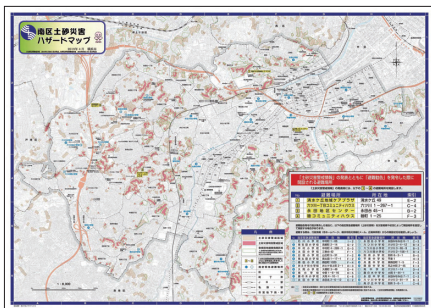
	警戒レベル	警戒レベル 1	警戒レベル 2	警戒レベル 3	警戒レベル 4	警戒レベル 5
避難情報など	避難行動など	災害への心構えを高めましょう。 	避難に備え、ハザードマップなどにより、 自らの避難行動を確認 しましょう。 	危険な場所から高齢者等は避難 避難に時間を要する人(高齢者、障害者、乳幼児など)とその支援者は危険な場所から避難をしましょう。その他の人は、避難の準備を整えましょう。 	危険な場所から全員避難 土砂災害などの兆候が表れているため、 速やかに危険な場所から避難 を。公的な避難場所までの移動が危険と思われる場合は、近くの安全な場所や自宅のより安全な場所に避難をしましょう。 	既に 災害が発生 している状況です。 命を守るための最善の行動 をとりましょう。 
	避難情報など			高齢者等避難 (横浜市が発令)	避難指示 (横浜市が発令)	緊急安全確保 ※必ず発令されるものではない (横浜市が発令)
防災気象情報	警戒レベル相当情報	早期注意情報	大雨注意報・洪水注意報 氾濫注意情報など	大雨警報 (土砂災害・浸水害) 氾濫警戒情報など	土砂災害警戒情報 氾濫危険情報など	大雨特別警報 氾濫発生情報など

ハザードマップとマイ・タイムラインの活用

各種災害の「ハザードマップ」や一人ひとりの避難行動計画である「マイ・タイムライン」。地域の災害リスクの把握や、いざという時どう行動するか整理するためにぜひ、積極的に活用しましょう。

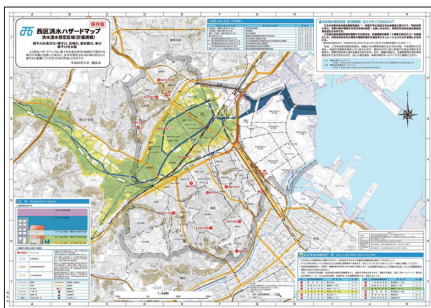
確認しておきたいマップ類

● 土砂災害ハザードマップ
梅雨時期の集中豪雨や台風に伴う豪雨などにより、土砂災害が発生した場合に被害がおよぶおそれのある区域を示し、大雨に対する備えをまとめたものです。



横浜市 土砂災害ハザードマップ

● 洪水ハザードマップ
想定し得る最大規模等の降雨により河川が氾濫した場合に浸水が想定される、洪水浸水想定区域及び想定される水深を表示した洪水浸水想定区域図に、避難所等の情報を表示しています。



横浜市 洪水ハザードマップ

● 各区の防災に関するマップ

さまざまな防災情報を各区分別に掲載。自宅や職場があるエリアをぜひ、確認しましょう。



横浜市 各区の防災に関するマップ

■ マイ・タイムラインを作成しましょう

マイ・タイムラインとは、台風や大雨の水害等、これから起こるかもしれない災害に対し、一人ひとりの家族構成や地域環境に合わせて、あらかじめ時系列で整理した自分自身の避難行動計画のことです。

マイ・タイムライン
(避難行動計画)



作成シートと防災の地図を用意して一人ひとりのマイ・タイムラインを作成しましょう。

横浜市 マイ・タイムライン

【避難行動計画】
マイ・タイムライン作成シート 台風や大雨時における一人ひとりの避難行動計画をたてましょう。
 台風や大雨などは事前に進路や規模が予測できることから、接近時の計画をたておくことで適切な避難行動に繋げることができます!!

【マイ・タイムライン】

完成レベル	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5
行政からの情報等	● 大雨になりそう	● 自主避難など注意の呼びかけ	● 高齢者等避難	● 避難指示	● 緊急安全確保
行政からの相対情報等	● 緊急レベルと警戒レベルの相対情報 ※リアルタイムで更新される最新の相対情報 ※リアルタイムで更新される最新の相対情報	● 大雨注意報、洪水注意報等	● 避難警報情報 大雨警報、洪水警報等	● 緊急危険情報 土砂災害警戒情報等	● 緊急安全確保 土砂災害警戒情報等
基本的事項 (全ての避難行動に共通する事項)	<input type="checkbox"/> 天候予報を確認 <input type="checkbox"/> 身の危険を確認 <input type="checkbox"/> 避難所へ避難する <input type="checkbox"/> 避難所へ避難する	<input type="checkbox"/> 避難所へ避難する <input type="checkbox"/> 避難所へ避難する	<input type="checkbox"/> 避難所へ避難する <input type="checkbox"/> 避難所へ避難する	<input type="checkbox"/> 避難開始 <input type="checkbox"/> 避難開始	<input type="checkbox"/> 緊急安全確保 <input type="checkbox"/> 緊急安全確保
水害避難が必要な場合	<input type="checkbox"/> 避難所へ避難する <input type="checkbox"/> 避難所へ避難する	<input type="checkbox"/> 避難所へ避難する <input type="checkbox"/> 避難所へ避難する	<input type="checkbox"/> 避難所へ避難する <input type="checkbox"/> 避難所へ避難する	<input type="checkbox"/> 避難開始 <input type="checkbox"/> 避難開始	<input type="checkbox"/> 緊急安全確保 <input type="checkbox"/> 緊急安全確保

わたしの計画
 上記のチェック項目を参考に、個人のタイムラインを記載しましょう!!
 手順1: 該当するものを記載
 手順2: 以外で他に必要なものがあれば記載

考えられる被害への備え (台風・土砂災害・浸水害)

台風や大雨は発生や規模が事前に把握することがある程度可能であり、被害を少しでも抑えるためにも、事前の備えを十分に行っておくことが大切です。

■ 台風

台風は事前に備えができる災害です。接近してからではなく、普段から対策に取り組みましょう。

テレビのニュースなどで台風の進路を確認しましょう。

家の外の備え

- 側溝や雨水ますの掃除をし水はけをよくする。
- 屋根や塀、壁の点検、補強する。
- 飛ばされそうな物の固定や撤去をする。
- 土のうや止水板を持っている場合は、すぐに設置できるよう準備する。



■ 土砂災害

横浜市では、崖崩れが発生した場合に人家に著しい被害を及ぼす可能性がある崖地をあらかじめ抽出し、その周辺地域(即時避難指示対象区域)に対して、「土砂災害警戒情報」の発表とともに「避難指示」を発令します。

避難のサイン

- 小石がパラパラ落下
- 斜面に湧水が発生
- 斜面に亀裂が発生 など



- 安全な場所への避難(指定緊急避難場所等の避難場所、近くの高台、土砂災害警戒区域外の知人の家など)

安全な場所へ避難が困難な場合には、下の二つの避難方法がある

- 頑丈な建物の2階以上または、近隣の高い建物へ避難
- 建物内の安全な場所で避難(夜間や危険が差し迫っている場合など、屋外へ避難するとかえって危険な場合)

土砂災害ハザードマップ



即時避難指示
対象区域について



横浜市 土砂災害ハザードマップ

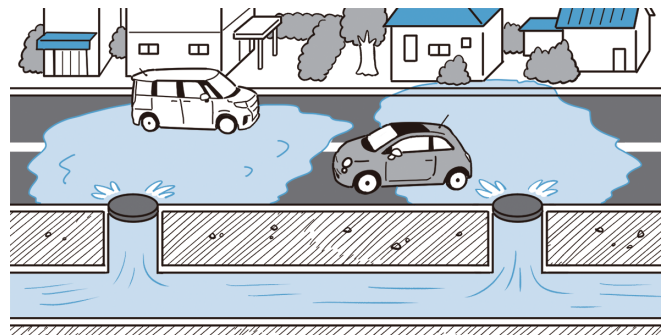
検索

横浜市 台風・大雨への備えについて

検索

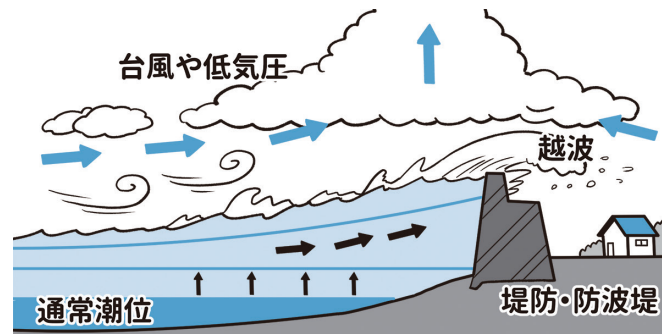
■ 内水

内水ではマンホールからの水の流出、住宅・道路の浸水や冠水などが起きます。既に大雨や浸水の場合は無理に避難をせず、自宅や近隣の頑丈な建物の上部に垂直避難をしましょう。



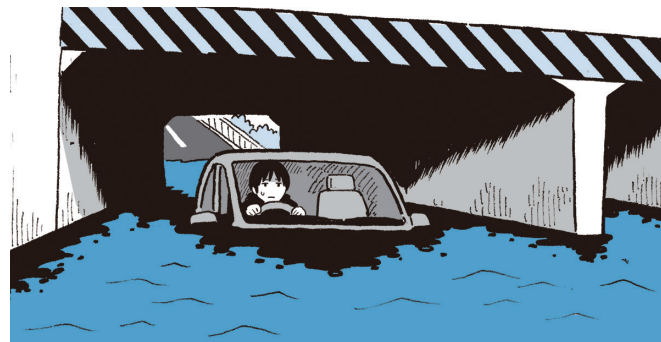
■ 高潮

高潮とは、台風や発達した低気圧に伴って、海岸で海面が異常に高くなる現象です。既に高潮が発生し、浸水が生じていたら、より高い場所へ避難しましょう。



■ アンダーパスなど

アンダーパスや低地では冠水し車が水没する等の危険があります。大雨の際の通行は避けるようにしましょう。



風水害時の避難行動の確認

【避難のサイン】を参考に、「自らの判断」で「自らの命は自ら守る」という考え方のもと、危険がせまる前に避難を開始しましょう。

避難のサイン(情報は早めに!)

下水道などからの浸水

河川氾濫の危険

- テレビ・ラジオ・横浜市HPなどで気象情報に注意しましょう。
- 横浜市HPなどで河川の状況を確認しましょう。
- 外の様子に注意しましょう。

※側溝やマンホールから大量の水があふれる。

土砂災害の危険

- 小石がパラパラ落下
 - 斜面に湧水が発生
 - 斜面に亀裂が発生など
- 崖崩れの
前兆現象

警戒レベル3(高齢者等避難)、
警戒レベル4(避難指示)など

が、出たら…

避難行動(早めに行動!)

安全な場所へ避難

(指定緊急避難場所等の避難場所、近くの高台、土砂災害警戒区域及び浸水想定区域外の親戚の家など)



頑丈な建物の2階以上 または、近隣の高い建物へ避難

屋外への避難が可能な場合など、
垂直避難をする場合



やむを得ない場合は建物内の 少しでも安全な場所へ退避

(夜間や危険が差し迫っている場合など、
屋外へ避難するとかえって危険な場合)



危険性に応じた避難行動を取りましょう

- ① ハザードマップを活用し、ご自宅や周辺の災害の危険性(土砂災害、洪水、高潮の危険)を確認します。
- ② 災害の危険性や浸水深等を考慮し、危険な区域外の親戚の家などの避難場所へ避難するか、自宅での垂直避難で大丈夫かを確認します。
- ③ 近くの避難場所(高台や垂直避難施設)を事前に確認しておきます。
- ④ 危険を感じた場合や、警戒レベル3(高齢者等避難)、警戒レベル4(避難指示)が発令された場合には速やかに避難を開始します。
- ⑤ 停電に備え、懐中電灯やラジオを用意しましょう。

風水害時の避難場所について

- 風水害時の避難場所の開設は、災害時、行政が避難指示等を発令する場合に、災害規模や状況に応じて決定し、各区ホームページ等でお知らせするほか、テレビのテロップにおいても流れます。

横浜市 風水害 避難場所

検索



指定避難所と指定緊急避難場所

- 指定緊急避難場所は、切迫した災害の危険から一時的に逃れるための場所で、「洪水」、「土砂災害」、「高潮」、「地震」等の災害の種別ごとに、地域防災拠点である市立学校等を指定しています。ただし、災害の規模や被害状況等により、地区センター等の公共施設や自治会館などを避難場所として開設する場合があります。
- 指定避難所は、災害によって自宅に住めなくなった場合などに避難生活を送る場所です。横浜市では地域防災拠点である市立学校等を指定避難所として指定しています(P14参照)。

「指定緊急避難場所」や「指定避難所(地域防災拠点)」の位置や避難経路を把握しておきましょう。

横浜市 指定緊急避難場所 指定避難所

検索

横浜市
指定緊急避難場所
指定避難所



雷・竜巻・火山災害への備え

実際に直面したら、どう行動したらよいかわからない…、
そんな雷・竜巻・火山災害への備え。
身を守るための基本的な行動を知っておきましょう。

■ 雷

雷は、雷雲の位置次第で、海面、平野、山岳などところを選ばずに落ちます。近くに高いものがあると、これを通して落ちる傾向があります。グラウンドやゴルフ場、屋外プール、堤防や砂浜、海上などの開けた場所や、山頂や尾根などの高いところなどでは、人に落雷しやすくなるので、できるだけ早く安全な空間に避難してください。



鉄筋コンクリートの建築物、自動車（オープンカーは不可）、バス、列車の内部は比較的安全な空間です。

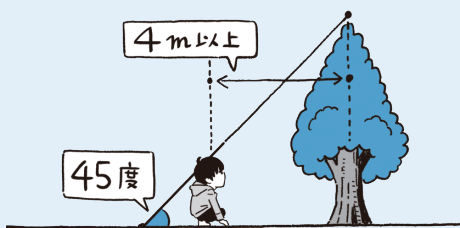
また、木造建築の内部も基本的に安全ですが、全ての電気器具、天井・壁から1m以上離れればさらに安全です。（出典：気象庁ホームページ「雷から身を守るには」）

安全な空間に避難できない場合

近くに安全な空間がない場合は、電柱、煙突、鉄塔、建築物などの高い物体のてっぺんを45度以上の角度で見上げる範囲で、その物体から4m以上離れたところ（保護範囲）に退避します。高い木の近くは危険ですから、最低でも木の全ての幹、枝、葉から2m以上は離れてください。

姿勢を低くして、持ち物は体より高く突き出さないようにします。雷の活動がやみ、20分以上経過してから安全な空間へ移動します。

（雷から身を守るには 一安全対策Q&A—：日本大気電気学会 から引用）
（出典：気象庁ホームページ「雷から身を守るには」）



■ 竜巻

竜巻は、積雪や積乱雲に伴って発生し、大気中の渦巻きが地上に達しているものです。真っ黒い雲が近づくなど天気の変異を感じたとき、竜巻注意情報などの情報を得たときは、次のことを参考にして、自分自身の身を守る行動をとってください。



避難行動

〈屋外〉

- 近くの頑丈な建物に避難する。
- 頑丈な建物がなければ、飛散物から身を守るような物陰に入って身を小さくして頭を守る。
- 倒壊する可能性があるため、電柱、太い樹木に近づかない。
- 物置、車庫、プレハブ（仮設建物）に避難しない。

〈屋内〉

- シャッター、窓、カーテンを閉め、窓から離れる。
- 2階建て以上の住宅では、1階の窓のない部屋に移動する。
- できるだけ家の中心部に近い窓のない部屋に移動する。
- 丈夫な机やテーブルの下に入るなど、身を小さくして頭を守る。

■ 火山災害

本市においては、主に富士山が噴火した場合に、「火山灰」の降下（降灰）による影響が予測されています。普段から情報を収集し、噴火警報・予報や降灰予報などの情報を得たときは、自分自身の身を守る行動をとしましょう。



降灰時に取るべき行動

- 防じんマスク、ゴーグル（または眼鏡）を着用する。
※目への刺激を防ぐため、コンタクトレンズは使わない。
- 灰が目に入ったら、手でこすらずに水で流す。
- 長袖、長ズボン等を着て、皮膚を守る。
- 交通事故に気をつける（降灰量によっては、外出や運転を控える）。
- ドアや窓を閉め、建物の中に灰を入れないようにする。